

ほんばこ



No. **58**

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 58 号 (通巻第 74 号)

2019 年 3 月 10 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 F

教 育 図 書 館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<http://www.jec.or.jp/tosho/>

● 目 次 ●

- ・「神保町で五十五年」
矢口 哲也 2~3 p
- ・《 図 書 紹 介 》
『図録 日本国憲法』
斎藤一久 (編集)・堀口悟郎 (編集)
弘文堂 (2018/12) 紹介 : 中川登志男 4~5 p
- ・最近の受入図書 (2018 年 12 月~2018 年 3 月受入) 6~7 p
- ・教育図書館のご案内 8 p

『神保町で五十五年』

矢口哲也

矢口書店は私で三代目になります。お陰様で昨年百周年を迎えることが出来ました。結婚するまでの約30年間は店に住んでいました。今まで千代田区以外に住んだことはありません。十数年前から日本教育会館のある一神町会の役員もしています。



幼稚園の頃はまだ店の前に都電（路面電車）が走っていました。この頃の写真を見ると風呂敷をマントにしてプラスチックの剣を振り回していたり、おそ松くんのイヤミのトレードマーク「シェー」のポーズをしています。僕は神田日活で映画を見た記憶はありませんが東洋キネマではまだ映画を上映していたと思います。東宝のゴジラシリーズを観た事を覚えています。400勝投手金田正一の引退試合を観に昔の後樂園球場（東京ドームの前身である野球場）に父に連れられて行った記憶があります、まだ電光掲示板ではなく黒板スタイルのスコアボードでした。野球場は終盤になると入口が開放されて中に入れるので、無料で観戦できました。球場や遊園地、スケート場やボーリング場など神保町界隈に住んでいた子供たちには、後樂園はとても身近な娯楽施設でした。

昭和50年に先代である父が映画・演劇・戯曲・シナリオの専門店の看板を掲げました。映画のパフレットやチラシなどを中古の本として売り物

にした先駆けだったのではないのでしょうか。外国の映画やTVドラマがとても人気があった時代でした。「スクリーン」や「ロードショー」といった外国のスターを扱う雑誌も人気でした。私の学区の公立校は錦華小学校（現お茶の水小学校）から一橋中学校（現神田一橋中学校）でした。学校のノートをプラスチック製の透明なバインダーにして「DO IT YOURSELF」と書かれていたものが人気があったと思います。その中に自分の好きなスターや歌手・スポーツ選手の写真の切り抜きなど入れて自分のオリジナルなノートを作るのが流行った時期でした。

都営三田線に続き新宿線が通り、店も土台を直したり色々な所に手を入れて古い建物ですがかなり近代的になりました。神保町の建物がビルになっていったのもこの頃だったと思います。僕はまだ学生で友達にバイトに来てもらい古本まつりを手伝ったりしていました。その後地上げの波が来て友達の家も引っ越すところが多くなりました。

僕が店に入った頃、映画を専門に扱う古書店は当時珍しく取材も多かったと思います。不思議なことに平日の昼間でも店には必ず数人はお客様がいらっしゃいました。店の映画パンフレットを隅から隅まで見て数十冊まとめて買っていかれたり、小中学生が親御さんと来店して雑誌を買って貰ったりと店には活気がありました。インターネットの無い時代でしたから、古書は古書店に来なければ手に入らなかったのがお客様も足繁く通われる方が多かったのでしょうか。古本まつりも盛況で会場は隙間ないぐらいお客様であふれていました。この頃は手伝いではなく自分で仕入れて古本まつりをやってましたから、本当に古本は良く売れるものだと思っていました。

私は店に入ってからずっとノートを付けていました。専門店なので同じ本を何度となく扱いま

す。この本は重版が続いていて現在の定価はいくらなのでこの値段で売る、あの本は出版社で品切れ重版未定で探しに来る人が多いのでこの値段で売るといようなことをまとめたものです。当時はよく売れる本で出版されてから数か月しか経っていないのに、最近ちょっと見かけなくなったと感じると、すぐ出版社に在庫を確認しました。そして品切れと確かめると定価に何割か乗っけて売値を高くしてみます。来店したお客様がその本を見つけて喜んで値札を見るとプレミアムが付いています。がっかりしながらレジに持ってきて『買おうと思ってんだけど、買いそびれて新刊屋に行ったら絶版だと聞いた。探しに来たけど、もう値上がりしてるんだ』と言って買っていかれます。そうすると定価より高くてもこの本は需要があるので買取価格も高くなります。売りに来たお客様も高く買ってくれたと喜ばれ、だんだんその本が値上がりすると買ったお客様もいい時に買っておいたと喜ばれます。逆に値段を下げるとどうして値下がりしたんだと怒られることも屢々だった時代です。

それから数年たってブックオフが出来てから郊外の古書店が神保町に移ってくるが増えました。西暦2000年に近くなってパソコンを導入しました。パソコンで在庫管理や価格などを管理出来るようになりとても便利になりましたが、その反面インターネットも普及し本を探す事を店やお客でなくITが行うようになりました。来店客や売上も減少傾向にあると思います。しかし東京の古本屋の数は減っていますが、神保町にはまだ100件以上あります。そして「ブックタウンじんぼう」「日本の古本屋」など神田古書店連盟や東京古書組合もIT化しています。神保町という古書店の多い特殊な街が今後衰退していかないよう努力していかなければならないと日々感じています。

最近の受入図書(1)

(2018年12月～2019年3月受入)

【日教組刊行物】

『第10回 TOMO-KEN 報告集 2018』日本教職員組合編 2018.12

『日教組全国学校事務研究会レポート集』製本1962.8-1973.8 日本教職員組合編

【教育研究全国集会報告書】

『日教組教育研究全国集会報告書』第68次 第1分科会～第22分科会 日本教職員組合編

【教育総研・県教組刊行物】

寄贈ありがとうございます。

『岩手高教組70年企画：継往開来』岩手県高等学校教職員組合編・発行

★岩手県高等学校教職員組合様より

戦中・戦後の生活用品・教科書・おもちゃ・軍装品などを平和教材として収集していた岩手高教組の組合員がいました。高等学校の国語教師小山義（おやまただし）さんの収集された「もの」と「思い」が語る貴重な歴史の証言冊子です。



『北流（復刻）』（第1号～第8号）岩手県教職員組合編

★岩手県教職員合様より

2018年4月に竣工した岩手教育会館の新築工事に伴う資料整理によりみつけられました。1949年から52年にわたって発刊された冊子の復刻版を作成、寄贈いただきました。



『季刊フォーラム教育と文化』93号（2018 Autumn）教育文化総合研究所編（株）アドバンテージサーバー 2019.1

《図書紹介》



斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』

弘文堂、2018年12月発行

憲法の教科書であり資料集

「本書のテーマである『憲法』も含めて、大学で学ぶ科目には、残念ながら資料集がほとんど存在しません。そこで思い立ちました。ならば、私たちが『憲法の資料集』をつくろう！」。

そうしたことをきっかけとして作り出された本書には、編者によると、以下のような特徴があるという。

第一に、本書の主役は文章ではなく、写真や図表などの視覚的なコンテンツである。第二に、本書は、単なる資料集ではなく、資料集と教科書の「いいとこ取り」をしたテキストであり、一般的な教科書では扱われていないような最新の時事問題を積極的に扱いつつも、伝統的な憲法学の体系に基づいた構成をとっている。第三に、本書の執筆者は、ほとんどが30代前半の若手であり、その若手の執筆者がこれまでに重ねてきた創意工夫が存分に盛り込まれている（以上、1頁）。

憲法の教科書であり、資料集でもある本書が持つそれらの特徴は、目次からもうかがうことができる。目次をめくると、「1 憲法とは何か」から「30 憲法改正」まで、30個の項目が4ページごとに並んでいる。つまり、一つの項目が見開き2ページ×2の計4ページで完結している。一つの項目の解説として、多過ぎず少な過ぎずという分量で収まっている。

また、項目が30個に整理されているのも示唆的

である。要は、大学での講義を意識しているのであろう。大学では1コマ90分4単位の講義が前期15コマ、後期15コマで構成されるのが普通である。つまり、年間で講義は30コマということになるので、それに合わせてあるのである（以前は前期、後期合わせて年25コマ程度でも良かったのだが、近年は文部科学省の指導が厳しく、年30コマを確保するように、どの大学も言われている）。

セメスター制にも対応？

さらに言えば、最近では、前期と後期とで課程を分けるセメスター制を採用する大学も増加しており、1コマ90分2単位の講義を前期か後期に15コマというケースも多い。

本書では、「1 憲法とは何か」から「15 勤労の権利・労働基本権」が「人権」分野、「16 参政権と選挙制度」から「30 憲法改正」までが「統治機構」分野、と分けることも可能な章立てとなっている。従って、同じ「憲法」の講義でも、前期「憲法Ⅰ（人権）」、後期「憲法Ⅱ（統治機構）」といった形に分けることも容易である。

各章ごとの分量がバラバラな一般的な教科書で講義をすると、本来は終えるべき項目まで進まずに1年が（半期が）終わってしまうことも多いのではないかと思う。だが、本書は1回の講義で扱うべき分量が明瞭であるので、教え切れずに1年が（半期が）終わってしまうということも回避しやすいだろう。どこまでも大学での講義に適した教科書であり、かつ資料集なのである。

ただ、法学部の憲法の講義は、「人権」分野で1コマ90分を年30コマ、「統治機構」分野で同じく1コマ90分を年30コマ、という構成をとるのが一般的で、「人権」も「統治機構」も含めて1コマ90分を年30コマで完結、というのは、法学部以外の学部で開講されている一般教養や関連科目という場合が多い。

その意味では、法学部での憲法の講義の教科書というよりは、法学部以外の学部での教科書に向

いているのかもしれない。だが、先程も触れたように、最新の時事問題を積極的に扱っていることからすれば、法学部での憲法の講義においても、教科書というよりは資料集として非常に適しているのではないかと思われる。

いずれにしても、法学部においても、法学部以外においても、憲法の教科書・資料集として活用しやすい構成であるというのが、本書の最大の特徴ではなかろうか。

高校教育や生涯学習にも最適

「本書は、大学で教科書や参考書としてお使いいただくのはもちろん、18歳選挙権の実現により主権者教育の充実が期待されている高校での発展的な学習教材としても、また憲法にご関心のある一般の方々に憲法学の入門書としてお読みいただくのにも適していると思います」（1頁）。

先程も触れたように、本書の特徴は「写真や図表などの視覚的なコンテンツ」を多用しているところにある。その点では確かに「高校での発展的な学習教材」としても本書は使えると私も思った。

ただ、本書は高校生にはやや高度な内容ではないかとも思うので、公民科の担当教員にも、本書の内容を理解し、それを使いこなす力量が必要ではないかとも感じる。また、一冊2,300円＋税という価格もややネックである。

一方、一般の方向けの入門書としても、確かに適していると思う。市民運動や平和運動に関わる人から、「何か憲法についての分かりやすい本はないか」とのお尋ねをいただくことがしばしばある。文章がメインの一般的な憲法の概説書だと、一般の方には敷居が高くて、こちらとしてもお勧めしづらいのだが、「写真や図表などの視覚的なコンテンツ」がメインの本書であれば、一般の方にも勧めやすいし、憲法についての理解も深めやすい。

その意味では、大学教育や高校教育のみならず、生涯学習にも適した教科書であり、資料集である

（ただ、字のポイントが小さいため、ご年配の方には少し読みづらいかもしれない）。

現首相も読んだ方がよい

以上のように、幅広い世代の学習に活用できるであろう本書が、初版だけで終わってしまったのは何とももったいない。編者や執筆者、編集者の負担となるので、軽々なことは言えないが、可能であれば最新の時事問題を追加するなどして、2～3年ごとに改訂版を発行して欲しいと思う。

また、本書には、項目としては別々ののだが、互いに関連した内容が盛り込まれている部分がある。例えば、第8章の「表現の自由・各論」には「政治参加と表現の自由」という一節があるが、これは第16章の「参政権と選挙制度」と関連の深い内容でもある。互いの章に「○ページも参照」といった注が付されていると、より使いやすいものとなるのではないか。

非常に構成が工夫された本書が世に出るまでには、編者、執筆者、編集者の長い時間の格闘があったことが、本書の行間から伝わってくる。この力作が、大学教育のみならず、高校教育や生涯学習など、幅広く様々な場で活用されることを願わずにはられない。現在の首相にもお読みいただきたいものだ。

（専修大学大学院法学研究科 中川 登志男）

教育図書館について

教育図書館は1966年10月1日、(財)日本教育会館の附設図書館として設立されました。教育関係図書を中心に、日本教職員組合結成以来の刊行物、全国教研集会報告書などのほか、国民教育文化総合研究所（略称教育総研、前身は国民教育研究所）の研究成果、教育学一般、教育実践記録などを重点的に収集、閲覧に供しています。

最近の受入図書(2)

(2018年12月～2019年3月受入)

【文部科学省刊行物】

『保育所保育指針解説 平成30年3月』厚生労働省 フレーベル館 2018.3

『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省 フレーベル館 2018.3

『小学校学習指導要領解説(平成29年告示)』

『中学校学習指導要領解説(平成29年告示)』

『学校基本調査報告書』平成30年度 初等中等教育機関編 日経印刷 2018.12

【平和教育】 【人権】

『六十年目に問い直す 沖縄戦』大田平和総合研究所編集・発行 2005.6

『高校生平和大使にノーベル賞を』「高校生平和大使にノーベル賞を」刊行委員会編 長崎新聞社 2018.8

『ボンちゃんは82歳、元気だよ!』石山春平著 社会評論社 2018.1

【社会・歴史・教育】

『運動部活動の戦後と現在』中澤篤史著 青弓社 2018.8

『数学的な見方・考え方を働かせる算数授業』盛山隆雄/[ほか]著 明治図書出版 2018.9

『学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす』中山芳一著 東京書籍 2018.11

『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育』小寺隆幸編著 ミネルヴァ書房 2018.1

『戦時下の絵本と教育勅語』山中恒著 子どもの未来社 2017.11

『唱歌教育の展開に関する実証的研究』嶋田由美著 学文社 2018.12

『子どもが危ない! スマホ社会の落とし穴』清川輝基、内海裕美共著 少年写真新聞社 2018.1

『格差社会を生き抜く読書』佐藤優・池上和子著

筑摩書房 2018.11

『保育・教育に生かすOrigamiの認知心理学』丸山真名美編著 梶田正巳、杉村伸一郎、竹内謙彰ほか著 金子書房 2018.11

『子供の危機管理～いじめ・不登校・虐待・暴力にどう向き合うか』Vol.9 ぎょうせい編 ぎょうせい 2019.1

『学校プラットフォーム』山野則子著 有斐閣 2018.11

『不登校でも大丈夫』末富晶著 岩波書店 2018.8

『「公教育」の私事化』岩崎充益著 東京図書出版 2018.1

『学校の「当たり前」をやめた』工藤勇一著 時事通信社 2018.12

『百歳の遺言』大田堯、中村桂子著 藤原書店 2018.6

『国語教育の危機』紅野謙介著 筑摩書房 2018.9

『となりのPTAの実践このPTAがすごい!』日本PTA全国協議会著 ジアース教育新社 2017.8

『<超・多国籍学校>は今日もにぎやか!』菊池聡著 岩波書店 2018.11

『教育勅語の戦後』長谷川亮一著 白澤社 2018.9

『「非認知能力」の育て方』ボーク重子著 小学館 2018.1

『気持ちを切り替える力<レジリエンス>』森薫著 太郎次郎社エディタス 2018.7

『人生100年時代の教養が身に付くオックスフォードの学び方』岡田昭人著 朝日新聞出版 2019.1

『遊びが学びに欠かせないわけ:自立した学び手を育てる』ピーター・グレイ著 吉田新一郎訳 築地書館 2019.1

『仏教抹殺』鶴飼秀徳著 文藝春秋 2018.12

『<ヤンチャな子ら>のエスノグラフィー:ヤン

『キーの生活世界を描き出す』 知念渉著 青弓社 2019.1

『学校心理学にもとづく教育相談』 山口豊一、松寄くみ子著 金子書房 2018.1

『学校は行かなくてもいい』 小幡和輝著 健康ジャーナル社 2018.9

『知ってはいけない 2』 矢部宏治著 講談社 2018.11

『佐高信の昭和史』 佐高信 KADOKAWA 2018.8

『SNSカウンセリング入門』 杉原保史、宮田智基著 北大路書房 2018.5

『限界を超える子どもたち』 アナット・バニエル 太郎次郎社エディタス 2018.8

『そろそろ左派は<経済>を語ろう』 ブレディみかこ、松尾匡、北田暁大著 亜紀書房 2018.5

『給食の歴史』 藤原辰史著 岩波書店 2018.11

『危ない道德教科書』 寺脇研著 宝島社 2018.9

『「ものの見方・考え方」とは何か 授業力向上の処方箋』 北俊夫著 文溪堂 2018.11

『ホモ・デウス』 上・下 ユヴァル・ノア・ハラリ著 河出書房新社 2018.9

『幼小中一貫教育で育む資質・能力』 広島大学附属三原学校園編 ぎょうせい 2018.12

『「明治礼賛」の正体』 斎藤貴男著 岩波書店 2018.9

『隠された十字架 法隆寺論』 梅原猛著 新潮社 2019.2

『未来をはじめ』 宇野重規著 東京大学出版会 2018.9

『コンビニオーナーになってはいけない』 コンビニ加盟店ユニオン、北健一著 旬報社 2018.9

『会計の世界史：イタリア、イギリス、アメリカ—500年の物語』 田中靖浩著 日本経済新聞出版社 2018.9

『エスタブリッシュメント：彼らはこうして富と権力を独占する』 オーウェン・ジョーンズ著 依田卓巳訳 海と月社 2019.1

『洗脳された日本経済：4つの思い込みで日本は

崩壊する』 浜矩子著 日本文芸社 2019.1

『「通貨」の正体』 浜矩子著 集英社 2019.1

『横田空域：日米合同委員会でつくられた空の壁』 吉田敏浩著 株式会社KADOKAWA 2019.2

『日航機123便墜落 最後の証言』 堀越豊裕著 平凡社 2018.7

【家庭・芸術・趣味・文学一般 ほか】

『1R1分34秒』 町屋良平著 新潮社 2019.1

『ニムロッド』 上田岳弘著 講談社 2019.1

『子どものための精神医学』 滝川一廣著 医学書院 2018.1

『ベルリンは晴れているか』 深緑野分著 筑摩書房 2018.12

『箱根0区を駆ける者たち』 佐藤俊著 幻冬舎 2018.12

『やっぱり、それでいい。』 細川貂々、水島広子著 創元社 2018.11

『木曜日の子ども』 重松清著 KADOKAWA 2019.1

『疲れない体をつくる疲れない食事』 柏原ゆきよ著 PHP研究所 2019.1

編集後記

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」といいますが、この3月で、30年以上教育会館に勤務、図書館業務に携わってこられた横川さんが図書館を去られます。経験と知識は代わることはできませんが、教えていただいたことを大切に、図書館業務に努めたいと思います。

また、ご多忙にもかかわらずご寄稿いただきました。矢口様、中川様ありがとうございました。本の値付けが「人」からITに変化していく時代の流れ、ノートをつけてこられた視点と感性。興味深いものでした。

「写真や図表などの図録」の憲法テキストとしての図書紹介、わかりやすいところから、憲法を考えられたらと思います。（川内）

教育図書館案内

- * 開館日：月 ～ 金
- * 開館時間：10：00 ～ 16：30
(2019年4月から変更の可能性があります。)
ホームページをご覧ください。
- * 蔵書の貸出
貸出冊数：5冊／貸出期間：3週間
館外貸出には、利用者登録が必要です。
- * 閉館時返却方法
5F 図書館入口前の「ブック・ポスト」をご利用下さい。
- * レファレンス・サービス
当館所蔵の図書・雑誌、その他教育に関するお問い合わせに対応しています。
- * コピー：白黒1枚10円／カラー30円

特別コーナー

- 平和資料コーナー：
反核（原発関連を含む）・平和運動、平和教育教材、平和教育実践記録、戦争体験記など
- 日教組刊行物コーナー：
日教組教育新聞・雑誌（「教育評論」「月刊JTU」など）、教育政策、教育課程、教科書問題、各部の図書・資料など
- 教育総研刊行物コーナー：
年報、理論講座、ブックレット、季刊「教育と文化」、各研究委員会報告書など このほか旧国民教育研究所時代のあらゆる刊行物も含む
- 日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ
- 都道府県・高教組史誌、同機関誌
- 文部科学省統計調査報告書・刊行物：
学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導要領、指導書など
- 海老原治善文庫：元東京学芸大学教授、教育総研初代所長海老原治善氏からの寄贈書

- 鈴木喜代春文庫：児童文学者、元教育相談室相談員鈴木喜代春氏の著作本、寄贈書
- 人権・防災・減災コーナー

蔵書の特徴

- 教育関係図書を中心に和書、和雑誌・新聞・洋書、洋雑誌などを収蔵しています。
- 蔵書数 約68,000冊（2018年9月現在）
- 教育図書館のホームページの蔵書検索の画面から検索できます。
(<https://ilisos001.apse.jp/kyoikutoshokan.lib/wop/pc/pages/TopPage.jsp>)
- 千代田区立図書館のホームページ「大学・専門図書館横断検索」からも教育図書館の蔵書が検索できます。

交通案内

- 神保町駅 A1出口より徒歩3分
- 九段下駅 6番出口より徒歩7分
- 竹橋駅 1b出口より徒歩5分
- 水道橋駅西口 徒歩12分（JR総武線）

